

軍隊のない国「コスタリカ」



コスタリカ訪問の報告をする二階堂まりさん（右）と川本かず子さん（左）（3月14日、中央公民館）

コスタリカを訪ねた2人が報告

3月14日、中央公民館で「こまえ九条の会」と「平和憲法を広める粕江連絡会」が主催して「軍隊のない国コスタリカってどんな国？—コスタリカを訪ねて—」という会が開催されました。会には会場いっぱいの55名が参加し、初めての話にメモを取りながら熱心に聞き入りました。

お話ししたのは、昨年コスタリカを訪問した二階堂まりさん（粕江市在住）と川本かず子さん（東久留米市在住）。お2人とも、せりふや音楽、歌、芝居を通じて世界平和を訴える「非戦ユニット・ピーストレイン」のメンバーです。

以下、お話の概要を紹介します。

「独立のために戦った軍隊が民主主義のためにならない」と軍隊廃止（1949年）

コスタリカは中米の小さな国で、人口は440万人。1949年に「独立のために戦った軍隊が、民主主義のためにならない」と常備軍を廃止、予算の3割を占めていた軍事費が、教育や福祉に回され、教育は無料、医療も無料になった。

「家族、友達と仲良く」が平和教育の基本

現地で会った大学生は「コスタリカは平和、人権、環境、社会制度の充実が特徴」と語ってくれた。学校で平和について何を教えているかという

教育・医療は無料

と、家族や隣人、友達同士が仲良く生活するため、よく話し合うよう教えている。

隣国パナマも軍隊放棄（1994年）

コスタリカの積極的平和外交は隣国パナマにも影響を与えて、パナマは1994年軍隊を放棄した。1986年に就任したアリアス大統領は、中米紛争の解決のために尽力しノーベル平和賞を受賞した。

世界平和のために働く人を養成する

「国連平和大学」がある

コスタリカには、国連が設立した研究機関・平和大学のキャンパスがある。平和大学では「国際法と人権」「紛争の平和解決」などの科目があり、世界各国からの平和をつくるリーダーとなる人を養成している。

武力より国際法は強い

バルガス・コスタリカ大学教授にも会ったが彼は「武力より国際法は強い。私たちは蟻のように小さいけれど、諦めずにやっていけば絶対に変わる。コスタリカには平和、人権、国民のための制度、実践がある。それで米国からも尊敬され、対等に接し、はっきりものを言っている。日本も米国との関係を見直すべきだ」と話してくれた。

自国に誇りの持てる日本にしたい

以上のような話があり、その後参加者から活発な意見や質問が出されました。参加者のアンケートでは、「軍隊を持たないということが、これほど素晴らしいとは思わなかった」「同じ平和憲法を持ちながら、海外派兵を進める日本、これでもいいのかと強く思った」「コスタリカのように自国に誇りが持てるような日本をつくってほしいと思った」などの声が寄せられました。